

## 第 1 回部会での主なご意見・検討手順の整理

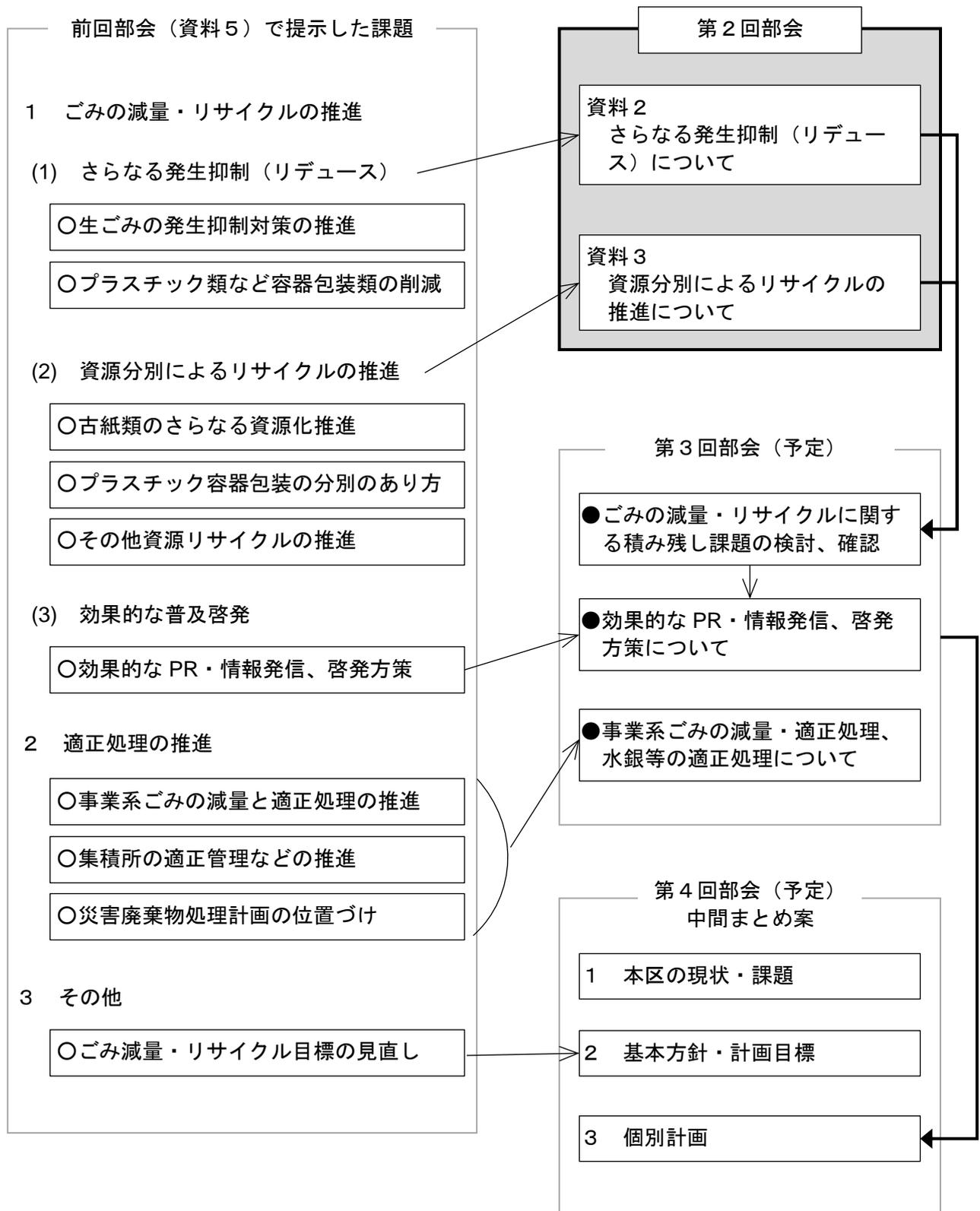
## 1 第 1 回部会での主なご意見及び区の考え等

## (1) 前回部会での主なご質問・ご意見について

ご質問・ご意見		区の考え等
人口動向	○人口増の内訳はどうなっているか。	※資料 1（本資料）で取り上げました。
発生抑制	○プラスチック容器包装の削減は、法による規制しかないのではないかと。	※資料 2 で容器包装リサイクル制度の動向を取り上げました。
リサイクル	<p>【プラスチック類】</p> <p>○トレイ・ボトル類については、リサイクル率だけを求めるのであれば、もっと別のやり方を検討すべきだが、リサイクル率をどう考えるかが課題ではないか。</p> <p>【古紙】</p> <p>○持ち去りの影響や新聞販売店回収の分を踏まえ、検討すべきではないか。</p> <p>【古布】</p> <p>○古着類を集積所回収できないか。</p> <p>○古着類を拠点まで持って行くのは困難。福祉の観点からも検討が必要ではないか。</p> <p>【土の回収】</p> <p>○プランター等の土の回収は出来ないか。</p>	<p>【プラスチック類・古紙・古布】</p> <p>※資料 3 で取り上げました。</p> <p>【土の回収】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売店による園芸土の回収を施策として位置づけるのは困難と考えられます。</li> <li>・区では、「地域コンポスト」で作った、たい肥と混ぜて再生土とするため、一時的に、イベント等で区民から不用土を回収していました。しかし、「地域コンポスト」事業自体が縮小となったため、再開の予定はありません。</li> </ul>
分別等の周知	<p>○単身者や外国人への情報提供、フォローが必要ではないか。</p> <p>○情報を発信するだけでなく、周知の工夫も必要ではないか。</p> <p>○迷ったものをどうするかなど、ハンドブックに具体的な記述があった方が良い。</p> <p>○月替わりでテーマを決めるなど、重点的な PR 啓発を展開できないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR・情報発信施策のあり方は、ごみの発生抑制や資源の分別の徹底など、全般に関わる課題です。</li> <li>・発生抑制・リサイクルの各項目で PR 啓発、情報発信に関するご意見を聞きながら、第 3 回部会で方向性を検討します。</li> </ul>
事業系ごみ	<p>○有料ごみ処理券の貼付を指導すべきではないか。</p> <p>○一日平均排出量 50 kg をより厳しくするのは難しいのではないかと。</p> <p>○資源物にもシールを貼ってもらうのも難しいのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 回部会で方向性を検討します。</li> </ul>
集積所の管理	○道路脇の集積所を、密閉式にできないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私有地の提供等に限界があり、基本的には地域で集積所を決めていただきます。</li> </ul>
水銀の処理	○蛍光管回収などを検討課題として追加すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 3 回部会で方向性を検討します。</li> </ul>
計画の目標	<p>○一人ひとりの区民は頑張っていると思う。目標は、現実的なものが良いのか、高い目標が良いのか。</p> <p>○施策の方向性にあった目標設定が望ましい。</p> <p>○国の循環計画にある「資源効率性」のような指標を掲げる工夫は出来ないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記検討を踏まえ、第 4 回部会（中間まとめ案）で方向性を検討します。</li> </ul>

## 主要課題の検討手順について

第1回清掃・リサイクル部会で提示した課題について、概ね以下の手順で検討します。



## 2 人口及び世帯数について

### (1) 人口増加の要因について

人口増の要因の一つに、外国人人口の急増が挙げられます。

- 総人口の増加率は、平成23年度に一度マイナスとなりましたが、その後プラスに転じ、ここ2年間は1%以上となっています。
- 外国人人口は変動が大きく、特にここ2年間は、対前年で10%以上伸びています。

図表1 人口・世帯数の推移（各年10月1日住民基本台帳）

年度	世帯数	人口(人)			外国人 比率	人口増加率		
		総人口	外国人	日本人		総人口	外国人	日本人
H16	259,603	522,739	15,330	507,409	2.9%			
H17	261,083	522,970	15,342	507,628	2.9%	0.0%	0.1%	0.0%
H18	264,816	526,275	15,207	511,068	2.9%	0.6%	-0.9%	0.7%
H19	268,971	529,173	16,147	513,026	3.1%	0.6%	6.2%	0.4%
H20	273,615	533,576	17,526	516,050	3.3%	0.8%	8.5%	0.6%
H21	276,631	536,404	18,188	518,216	3.4%	0.5%	3.8%	0.4%
H22	278,051	536,433	18,342	518,091	3.4%	0.0%	0.8%	0.0%
H23	278,374	535,802	17,390	518,412	3.2%	-0.1%	-5.2%	0.1%
H24	279,574	536,914	16,065	520,849	3.0%	0.2%	-7.6%	0.5%
H25	282,636	539,924	16,449	523,475	3.0%	0.6%	2.4%	0.5%
H26	285,774	543,076	17,570	525,506	3.2%	0.6%	6.8%	0.4%
H27	291,332	549,571	19,341	530,230	3.5%	1.2%	10.1%	0.9%
H28	297,540	556,859	22,002	534,857	4.0%	1.3%	13.8%	0.9%

年代別に見ると、老年人口の増加が目立っています。

図表2 年代別人口の推移（各年10月1日住民基本台帳）

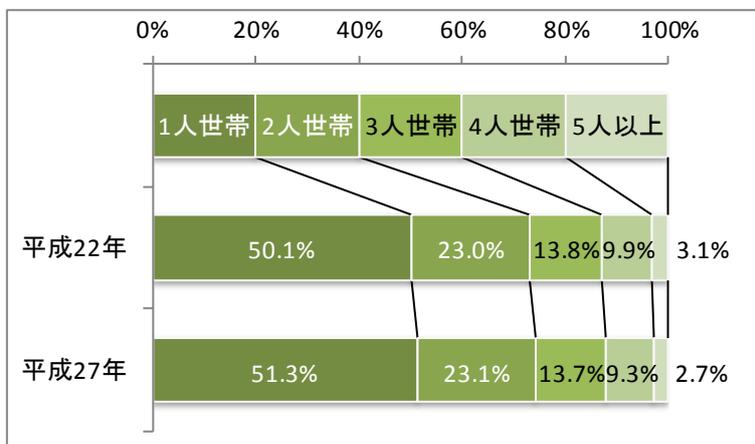
単位：人（括弧内は平成16年度を100とした場合の比率）

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
年少人口 (0～14歳)	59,327 (100)	59,037 (99.5)	59,349 (100.0)	59,056 (99.5)	59,605 (100.5)	59,826 (100.8)	59,663 (100.6)	59,608 (100.5)	59,707 (100.6)	60,162 (101.4)	60,478 (101.9)	61,008 (102.8)	61,830 (104.2)
生産人口 (15～64歳)	372,647 (100)	370,358 (99.4)	369,876 (99.3)	369,549 (99.2)	370,505 (99.4)	370,013 (99.3)	368,659 (98.9)	366,704 (98.4)	363,547 (97.6)	361,900 (97.1)	360,884 (96.8)	363,627 (97.6)	367,580 (98.6)
老年人口 (65歳以上)	90,765 (100)	93,575 (103.1)	97,050 (106.9)	100,568 (110.8)	103,466 (114.0)	106,565 (117.4)	108,111 (119.1)	109,490 (120.6)	113,660 (125.2)	117,862 (129.9)	121,714 (134.1)	124,936 (137.6)	127,449 (140.4)
合計	522,739 (100)	522,970 (100.0)	526,275 (100.7)	529,173 (101.2)	533,576 (102.1)	536,404 (102.6)	536,433 (102.6)	535,802 (102.5)	536,914 (102.7)	539,924 (103.3)	543,076 (103.9)	549,571 (105.1)	556,859 (106.5)

(2) 世帯構成の変化

国勢調査による世帯人員別の世帯数を見ると、単身世帯、2人世帯の割合がわずかに増えています。

図表 3 世帯人員別の世帯数（国勢調査）



単身世帯は、5年間で12,663世帯（人）増加しています。その内の約半分、6,851世帯は65歳以上の単身世帯の増加です。

図表 4 単身世帯の推移（国勢調査）

